

**令和7年度
(令和6年度事業)**

**伊万里市教育委員会の点検・
評価報告書**

**令和8年2月
伊万里市教育委員会**

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされております。本報告書は、地教行法に基づき、教育委員会が課題や今後の取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民の皆さんへの説明責任を果たすため、実施した事務事業のうち、主要な事業について行った点検・評価の結果をまとめたものです。

伊万里市教育委員会では、今回の点検・評価の結果に基づき、評価結果を市民に公表し、次年度以降の事業の立案に反映させることにより、事務改善に役立つよう努めてまいりたいと考えておりますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年2月24日

伊万里市教育委員会

目次

I	点検・評価制度の概要	1
1.	趣旨	
2.	点検・評価方法	
II	教育委員会会議の状況等について	2
III	教育委員会の点検・評価施策	
施策1	学校教育の推進	3
施策2	生涯学習の推進	13
施策3	青少年の健全育成の推進	18
施策4	子育て支援の充実	22
施策5	文化芸術・スポーツの振興	25
施策6	人権教育と啓発の推進	32
施策7	文化財の保護	35

I 点検・評価制度の概要

1. 趣旨

教育委員会の定める基本方針のもと教育委員会が執り行っている教育行政事務について、自ら点検評価を行うことにより、責任体制を明確化し、効果的な教育行政の一層の推進に努めるものです。

また、点検・評価の結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することにより市民に対する説明責任を果たし、次年度以降の事業に反映できるよう改善に努めてまいります。

2. 点検・評価方法

令和6年度の伊万里市の教育に重点的に取り組む施策として掲げた下記の施策について、教育に関し学識経験を有する第三者からのご意見をいただき、点検・評価を実施しました。

- 施策1 学校教育の推進
- 施策2 生涯学習の推進
- 施策3 青少年の健全育成の推進
- 施策4 子育て支援の充実
- 施策5 文化芸術・スポーツの振興
- 施策6 人権教育と啓発の推進
- 施策7 文化財の保護

ご意見をいただいた方々

氏名	摘要（令和8年2月現在）
森 哲也 様	元市教育長、元小学校長、元中学校長
吉武幾二郎 様	市スポーツ協会会長、元中学校長
道山 和美 様	元市教育委員

Ⅱ 教育委員会会議の状況等について

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の会議運営の状況

毎月の定例会に加え必要に応じて臨時会を開催しました。会議資料については、教育委員に事前に配付し、議案等についての各委員の理解に努めるとともに、議案等について事務局からの説明に対して質問や提案を受けるなど会議の充実を図りました。

(2) 教育委員会会議の開催回数

- 定例会 12回（毎月1回）
- 臨時会 1回（必要に応じて開催）

(3) 定例教育委員会及び臨時教育委員会の内容等

- 定例教育委員会
 - 教育委員会の規則改正等
 - 教育委員会事務局職員の人事異動等（3月ほか）
- 臨時教育委員会
 - 令和7年度以降使用中学校教科用図書の採択について
- 教育委員会感謝状贈呈式（4月）
- 教育委員会表彰式（11月）

(4) 市長部局との連携

市長部局が開催する総合教育会議において、教育に関する様々な課題等について率直な意見交換を行い、より一層の意思疎通を図ることができました。

- 第1回総合教育会議（R6.8.20）
 - ・いじめ・不登校対策について
 - ・教育現場の人材確保について
 - ・学校給食アレルギー対応について
- 第2回総合教育会議（R7.2.27）
 - ・いじめ・不登校対策について
 - ・子ども第三の居場所きららの開設について
 - ・学力向上について

Ⅲ 教育委員会点検・評価施策

施策 1 学校教育の推進

1 取組方針

学校教育では、知・徳・体を育む「生きる力」の育成を基軸にして「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を持ち、創造的で個性豊かな児童生徒の育成を目指します。

2 主な取組実績

「確かな学力」を育むために、学力向上対策の推進、教職員の実践的指導力の向上、教育環境の整備に取り組みました。

また、「豊かな心」を育むために、その基盤となる家族やふるさとにおける人間関係を育む道徳性を養うことが大切であり、いじめのない思いやりの心あふれる「愛と信頼に基づく教育・人権文化の創造」に積極的に取り組みました。

さらに、「健やかな体」を養うために、健康教育の充実を図り、望ましい生活習慣や食習慣、運動習慣の形成に取り組みました。

(1) 魅力ある学校教育の展開

① いじめ・教育相談事業

平成 27 年 3 月の伊万里市いじめの防止等に関する条例制定に伴い、いじめ防止対策を実効的に行うための専門機関として、市に伊万里市いじめ問題対策委員会を、全学校にいじめ対策委員会を設置しています。

教育相談の専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラー 5 名を拠点校に配置し、全小学校で巡回相談を行っており、不登校やいじめなど子どもや保護者が抱える悩みについての相談や診断等の適切なカウンセリングを行いました。今年度は 1 日 4～8 時間、1 か月に 1～3 日程度実施しました。

必要に応じ、いじめ防止等緊急スクールカウンセラーを派遣する等の支援を行いました。

カウンセラーの助言を受けたことで学校に登校できるようになったなど、児童や保護者などの抱える問題を改善することができました。

○拠点校：伊万里小、大坪小、二里小、黒川小、南波多郷学館

・相談件数：391 件

・相談人数：延べ 470 人

また、些細なことでも早い段階から対応を行い、いじめに対して適切な指導

をしたことで、解消に向かった事例もありました。

市いじめ問題対策委員会では、実際にあつたいじめの事例を共有するなど、児童生徒が安心して生活し、健やかに成長することができる環境づくりに努めるとともに、諮問事案について審議を行いました。

【スクールカウンセラー年度別相談件数】

年 度	相談件数
令和2年度	458件
令和3年度	408件
令和4年度	461件
令和5年度	458件
令和6年度	391件

②教科書購入事業

令和6年度は、小学校の教科書改訂により教員用教科書・デジタル教科書を含む指導書の購入を行いました。

また、デジタル教科書を主要教科で整備し、児童生徒の学習への興味や関心を高め、多くの資料や情報を素早く提供することができるようになったことで、その学力向上を図るとともに、電子黒板を効果的に活用することができました。



③小学校パソコン管理事業・中学校パソコン管理事業

情報化社会に対応する能力を養うため、学習用タブレット（パソコン）や電子黒板等の ICT 機器のほか、教職員が日常的に使用する校務用パソコンを整備・更新するもので、令和6年度は電子黒板等の ICT 機器及び校務用パソコンを整備しました。

経年劣化した電子黒板等を更新することで、学習指導要領で目標とされる ICT 機器を整備し、児童の学習活動の充実を図るとともに、教職員の業務負担軽減を図ることができました。

④ デジタル・シティズンシップ教育推進事業

デジタル技術の体験を通じて、次世代を担う「デジタル・シティズンシップ」の教育推進を目的としています。プログラミング教育の必修化に伴い、より実践的なプログラミング教育を推進するため、令和 6 年度は中学校及び義務教育学校後期課程の生徒を対象に、IT 企業から外部講師を招き、プログラミングワークショップを開催しました。

プログラミングワークショップでは、ロボット・ドローンプログラミング講座を中心に、デジタル技術の体験を通し児童生徒の興味関心を高め、IT リテラシーの向上を図ることができました。



⑤ 市内企業見学事業

社会科で工場について学習する市内すべての小学 5 年生を対象に、市内企業の工場見学を実施することで、本市の製造業について学習し、興味・関心を持つことにより、将来の就職や定住の推進を図りました。

実際に工場に出向き、従業員が行っている作業等の様子を、説明を受けながら見学したり、商品の製作を行ったりすることで、教科書で学習する单元を楽しみながら学習をすることができました。

また、現場で働く従業員の姿を見ることを通して保護者等の働く姿を目の当たりにする貴重な機会となりました。

【令和 6 年度訪問企業】

株式会社名村造船所 (2 校)

七ツ島産業株式会社 (1 校)

株式会社宝山工業 (2 校)

昭和金属工業株式会社 (4 校)

株式会社奈雅井 (1 校)

伊万里東洋株式会社 (1 校)

株式会社かねは食品 (1 校)

株式会社 SUMCO (2 校)

(2) 信頼される学校教育の展開

① 中学校外国語指導助手外国青年招致事業

グローバル化に対応する教育を目的に、語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）での外国語指導助手（ALT）の雇用をはじめ、ALTの効果的な活用として、中学校での英語教育や小学校3・4年生の外国語活動及び5・6年生の外国語科の連携や英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、国際理解教育の推進を図りました。



② 中学校部活動地域移行推進事業

部活動の地域との連携について、「伊万里市の部活動における地域連携等に関する検討会議」を開催し、これからの部活動の可能性とあり方について協議を行いました。（検討会議開催数：3回）

③ 学校運営交付金事業

校長の裁量により、子どもや地域の状況に応じた魅力ある学校づくりを推進するため、学力向上やふるさと学習、地域貢献活動等に取り組んだほか、学校現場で発生する様々な課題に対応するため、危険個所の応急措置や熱中症対策等を実施しました。（20校分の交付金総額：3,110,000円）

(3) 学校規模適正化と施設整備

①小学校管理事業・中学校管理事業

市立学校の教材備品、図書備品等の購入・充実により学習環境の維持に努めるとともに、新たな取組として校舎等の照明 LED をリース方式で導入しました。

また、各学校施設の適正な維持・管理をはじめ、トイレ洋式化や使用禁止となった小型焼却炉の解体を行うなど、児童生徒の安心・安全の確保や学校施設環境の改善に努めました。

②小学校施設環境改善事業・中学校施設環境改善事業

昨今の猛暑の影響により夏場の教室は過酷な環境にあることから、市立学校の特別教室（理科室、音楽室、家庭科室、被服室、美術室、多目的室）にエアコンの設置を行い、令和 7 年 1 月から使用を開始しました。普通教室と同様に特別教室においても、暑さ寒さを気にせず年中利用することができるようになり、生徒達へ快適な学習環境を提供することができました。



③東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業

老朽化した東山代小学校、東山代児童クラブ及び東山代コミュニティセンターの 3 施設を複合施設として整備し、建物の供用を開始しました。

令和 5 年度に引き続き、東山代小学校、東山代児童クラブ及び東山代コミュニティセンターの複合施設の建設工事を実施するとともに、児童用の机や椅子、図工室の工作台など学校備品の購入を行い、校舎や体育館などの供用を開始することができました。

(全体進捗率 94.3%)

工 事	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
年度割	28.1%	66.2%	5.7%

◆東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設 施設外観等



④東陵学園等整備事業

大川小学校、松浦小学校の校舎老朽化及び児童数の減少に伴い、両小学校と東陵中学校を統合し、令和7年度から新たに義務教育学校「東陵学園」として開校するため、東陵中学校の校舎の改修を行いました。

また、大川小学校、松浦小学校及び東陵中学校の閉校に伴い、学校の歴史や思い出を残すために必要な記念誌、記念碑等の作製、閉校記念式典を行うための費用として、学校と地元地区等で組織する閉校事業部会に対し補助金を交付しました。

令和5年9月から東陵中学校の昇降口・職員室・職員トイレの増築工事、多目的室を図書室に改修するとともに、児童生徒に必要な学校備品の購入や新たな校章を決定し校旗を作製するなど、東陵学園の開校に向けた整備を完了することができました。

また、閉校する3校において閉校記念式典を行い、学校のそれぞれの歴史に幕を下ろしました。

(全体進捗率 100.0%)

工 事	令和5年度	令和6年度
年度割	31.8%	68.2%

◆東陵学園校舎



◆東陵学園校章



(4) 食育の推進と安心して魅力ある学校給食の提供

①学校給食運営委員会支援事業

学校給食事業に必要な不可欠な学校給食運営委員会の適正かつ円滑な運営を図るため、学校給食運営委員会に対し、活動費や物価高騰による子育て世代の負担軽減のための事業費を補助しました。

令和6年度は、活動費補助として100,000円、物価高騰による子育て世代の負担軽減のため、令和5年度と令和6年度の給食費増額分の1/2を補助するとともに、進学等に向け特に経済的負担が大きい中学3年生の給食費を無償化するための事業費補助として52,358,737円を交付し、経済的負担の軽減と子育て環境の改善、食育への関心向上に努めることができました。



▲学校給食運営委員会



▲学校給食の一例

②学校給食センター改修事業

給食センターの建設から18年が経過し、設備・機器の耐用年数はすでに超過しており、部分的な修繕・改修では施設の満足な機能を保つことが難しいことから、令和5年度から令和7年度までの夏休み期間において老朽化した施設・設備等の更新を行っています。また、令和5年度から令和19年度までの期間、給食センターの施設や調理設備等の維持管理業務も併せて行っ

ています。

令和6年度は、夏休み期間に調理室にある蒸気釜、連続揚物機、連続炊飯機など調理機器の入替を行うとともに、より美味しい給食を提供するため、熱風とスチームの組み合わせで多彩な調理が可能なスチームコンベクションオーブンを導入しました。また、9月からアレルギー除去食提供を開始しました。



3 第三者からのご意見

(1) 魅力ある学校教育の展開

- ・「愛と信頼に基づく教育・人権文化の創造」への積極的な取組は豊かな心を育む大きな力になることでしょう。この伊万里市教育の大切な柱がさらに深化されることを期待します。
- ・いじめ・教育相談事業では、前年より拠点校配置のスクールカウンセラーが増員されたことを評価します。複雑化する悩み解決のためには適切なカウンセリングが大切です。そのための環境整備は行政の大切な役割です。
- ・いじめ・教育相談事業では、現在の児童生徒の状況を踏まえスクールカウンセラーや教育相談員の適切な配置をしてその解消に努めていただいていることを評価します。
- ・スクールカウンセラーについては4名体制から5名体制へと増員したことにより、相談対応の充実が図られ、児童生徒や保護者が抱える不安や課題（いじめ、学習、周りとの馴染めないなど）に対して、よりきめ細かな支援が可能になった点を評価します。今後も包括的・継続的な支援体制の構築を期待します。
- ・ICT教育の充実に向け、各学校にパソコンやICT機器が順次配置され、教職員や児童生徒の活用に大きく貢献していると思います。
- ・デジタル・シティズンシップ教育推進事業、市内企業見学事業は、児童生徒の興味関心を高め、学習意欲につながる重要な事業だと思います。

- ・特色ある事業として、市内企業見学事業の取組は様々な企業を有する伊万里市の児童生徒にとって貴重な体験活動であり、是非今後も充実させていただきたいと思います。

(2) 信頼される学校教育の展開

- ・中学校部活動地域展開推進事業では、検討委員会を立ち上げ、時代に即応した取組に感謝し、伊万里市ならではの認定クラブ制度の検討など率先して取り組まれていることに敬意を表します。
- ・学校運営交付金事業は、校長裁量で子どもや地域の状況に応じた魅力ある学校づくりが推進できる素晴らしい事業です。校長が創意工夫、意欲を十分発揮できるように今後、さらに充実されることを期待します。
- ・学校運営交付金事業では、校長裁量による学校独自の取組に支援がなされていることを評価します。これからさらに地域と連携した取組がなされると思いますが、学校独自の財源があることは大いに活用と成果が期待できると思います。
- ・各学校によって必要な物や様々な課題は違ってくるものの、この学校運営交付金事業があることで児童生徒の学校生活の充実につながればありがたいものだと思います。

(3) 学校規模適正化と施設整備

- ・東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備、義務教育学校「東陵学園」の開校に向けての東陵中学校の校舎改修など積極的に事業を推進されていることに敬意を表します。
- ・関係学校の閉校に伴う記念誌、記念碑等の作成、閉校記念式典の開催、また、開校に伴う校章、校旗の作成などへの補助、支援等を感謝します。
- ・新しい教育環境の在り方を目指した東山代小学校の新築や義務教育学校の東陵学園の開校など、施策が遂行されたことに感謝します。学校規模適正化委員会の諮問を受け、時間をかけて市民が理解し、納得できる取組の遂行をお願いします。

(4) 食育の推進と安心で魅力ある学校給食の提供

- ・学校給食への支援事業として、経済的負担の軽減と子育て環境の改善、食育への関心向上に尽力されていることを評価します。
- ・学校給食センターの施設や調理設備等の維持管理が計画的に実施されていることを評価します。アレルギー除去食提供の開始は大きな成果です。

- 伊万里市の学校給食の取組と充実に感謝します。豊かな心の育成の一助となっていると感じます。今後の課題は学校給食費の無償化への対応かと思われます。
- 4人目以降の給食費補助から中学3年生の給食無償化を実施した点は、子育て支援の観点からも意義が大きいもの。また、給食費の増額分の1/2の補助する措置により、わずかではあるものの急激な負担増とならないよう配慮がなされている。物価の高騰もある中での増額であり、給食費の値上げの検討も大変だったと思います。
- アレルギー除去食の提供開始は、児童生徒一人ひとりの健康と安全に配慮されており、安心して給食を提供できる体制整備につながっている。食の安全と食育の充実を両立させた学校給食の推進を期待いたします。

施策2 生涯学習の推進

1 取組方針

市民が、生涯にわたっていつでも、自由に学習することができ、さらに学習成果をいかすことのできる「生涯学習社会」の実現を目指し、中央公民館、コミュニティセンター及び市民図書館において、多様な学習ニーズに応じた学習機会の充実や情報の提供に努めます。

2 主な取組実績

中央公民館（生涯学習センター）及びコミュニティセンターにおいては、市民の学習ニーズに対応した学習機会の充実や情報提供をはじめ、「伊万里学」の学習活動を通じた郷土意識の醸成や地域づくりを担う人材の育成に取り組むとともに、その学びの場である「伊万里塾」の受講など、子どもから高齢者までの市民が主体的に取り組む学習活動を推進しました。

市民図書館においては、市民の知的活力を高めて豊かな心を醸成するために、生涯学習の拠点として資料の整備やレファレンスの充実を図り、あらゆる世代の成長を支えるとともに、地域や個人の課題解決を支援するためのサービスに努めました。また、「日本一のうちどく推進のまち・いまり」宣言を浸透させていくため、「第四次子どもの読書活動推進計画」に基づき、学校や家庭、地域と連携して「うちどく（家読）」を推進しました。

(1) 生涯学習の推進

①地域学校協働活動の推進

地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」を円滑に進めるため、「地域学校協働活動推進員」を全小学校区に配置しました。

○地域学校協働活動推進員

14名（小学校毎に1名）

○地域学校協働活動推進員協議会

R6.9.10、R7.2.25開催

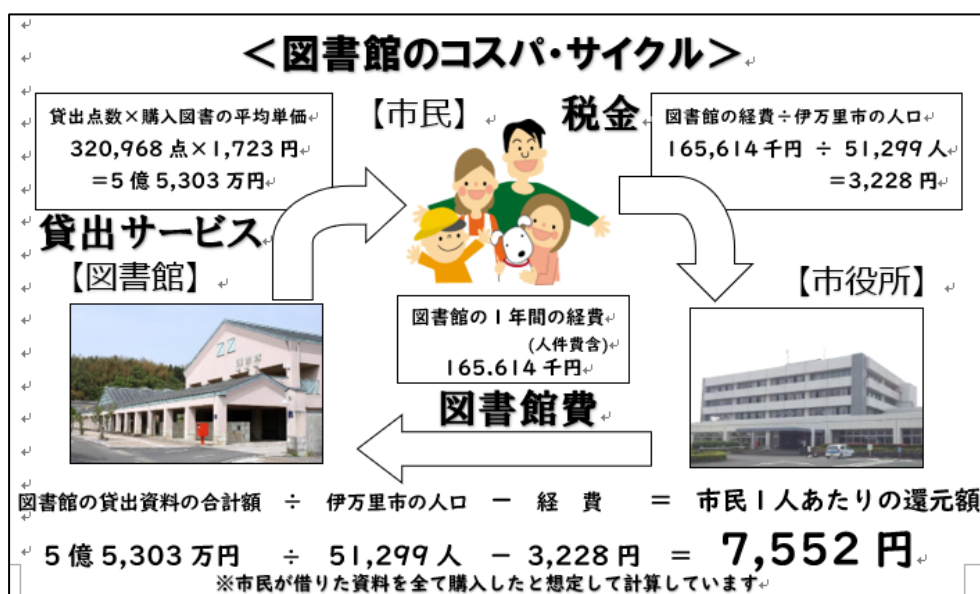
(取組内容)

- ・大坪小学校：朝の読み語り活動
- ・大川内小学校：田んぼの学校
- ・波多津小学校：課外授業（地域を学ぶ）、はたらく人プロジェクト、学校給食試食会

- ・南波多郷学館：南波多子ども教室（昔遊び、手話、書道、スポーツ）、川柳教室、認知症キッズサポーター講習会、登下校の見守り・交通教室
- ・大川小学校：大川町駅舎及び周辺の清掃活動
- ・松浦小学校：クリーン作戦活動、馬の頭水利施設見学、昔遊び学習
- ・山代東小学校：玉ねぎ生産体験、職業講話

②資料の収集と保存・提供事業

令和6年度における市民図書館の利用状況は、個人登録者数 47,990 人、団体登録 1,409 団体、利用人数 67,636 人、貸出点数 320,968 点となり、前年度より減少しました。一方、調査相談（レファレンス）は 7,824 件、予約受付件数は 14,176 件と、それぞれ前年度に比べてやや増加し、読書に対する要求の高まりを見せています。加えてインターネットによる予約は、年間 11,794 件と予約全体の 83.2% を占めており、本年度中に行った図書館システム更新の成果と相まって、図書館ホームページを使用した予約は今後も増加すると見込まれます。



▲図書館で借りられた本の費用対効果を検証

③全域サービスの充実

市内全域にわたる図書館サービスのため、2 台の自動車図書館「ぶっくん」が 76 ステーションを巡回し、遠隔地に住む市民や、一人で図書館に来られない子どもや高齢者に対して、本の貸出を行いました。特に、子どもへのサービスは長年続けており、幼稚園、保育園、認定こども園で出前おはなし会を 23 か所、355 回実施しました。市民にも親しまれる存在であり、貸出

点数は 90,238 点と図書館全体の 28.1%を占めています。

④市民との協働事業の推進

令和 6 年 7 月に開館 29 周年を迎え、市民と一緒に誕生日を祝う「図書館 ☆(ほし)まつり」を開催しました。施設利用については、展示コーナー等の利用日数は延べ 197 日間、図書館が主催した行事の参加者数は 2,569 人、市民が主体となって行った会議や研修会などの参加者数は 5,752 人と多く利用されました。

西九州させば広域都市圏連携事業では、年間 24 回の配本車の巡回があり、当館では 26 冊の配送を依頼し、参加図書館との相互貸借を行いました。

⑤図書館の改修事業

図書館が令和 7 年 7 月に開館 30 周年を迎えることから、令和 6 年度は、これまで培ってきた市民との協働や知の拠点としてのポテンシャルを活かし、環境を始めとした SDGs の考えを学ぶ新たな機能を盛り込むことで、より良い図書館を目指すために、カーボンニュートラルライブラリー構築業務委託を行いました。また、公共施設における再生エネルギー導入の端緒として、太陽光発電設備設置の契約を行いました。

カーボンニュートラルライブラリーについては、市民の学習機会を設け脱炭素への関心を高めると同時に、カーボンニュートラルライブラリー構築業務委託により、細やかな意見を反映した報告書を作成することができました。また、太陽光発電設備設置工事については、図書館の機能や景観を損なわない契約を締結することができましたが、設置工事については令和 7 年度に繰り越して行うことになりました。これらの事業により、再生エネルギーの有用性を市民に啓発する契機をつくるできています。

(2) 読書などによる家庭教育力の向上

①「伊万里市子どもの読書活動推進計画」の実践

令和 3 年度に策定した第四次計画をもとに、市内小学校、中学校、義務教育学校、保育園、幼稚園、認定こども園、コミュニティセンターなどで、次の 4 つの基本方針を掲げ、子どもの読書活動を推進しました。

- ・発達段階ごとの取組推進
- ・読んで、話す取組の充実
- ・大人の役割創出
- ・家読の普及と推進

すべての機関は年度当初に提出した計画をもとにそれぞれ実践を展開し、年度末には自己評価をするなど、組織的・計画的に子どもの読書活動推進に取り組みました。

②うちどく（家読）の推進

令和6年度は、児童文学者の村中李衣氏を迎え、「しあわせを紡ぐ絵本の読みあい」と題し、うちどく推進講演会を行いました。子ども達と絵本を介したコミュニケーションを大切にする「読みあい」についてお話しいただきました。

また、第9回「伊万里市民図書館・学校図書館を使った調べる学習コンクール」を開催し、市内の小学校から46点の応募があり、入賞作品（12点、12人）を表彰するとともに、最優秀賞の2点を全国コンクールへ推薦し、その2点とも佳作に入賞しました。

さらに、うちどく広め隊の活動として、市内のおはなしボランティアが集まり学習を行う「おはなしネットワーク」において、市内で活動している読み語りボランティアを派遣しました。集会において、「読みかたり風21」によるおはなしの実演があり、読みかたりの技術指導やテクニックの習得と情報交換がなされ、うちどくへの意識が高まりました。

なお、地域ごとのうちどくの取組も広がりを見せており、特色ある事業やイベントを通して、市民主体の読書活動が充実してきています。

③学校やコミュニティセンターへの支援

学校図書館が児童生徒の読書センター・学習センター・情報センターとして機能できるよう市教委訪問に同行し、学校からの求めに応じた助言指導や環境整備等の支援を行いました。全学校に対する団体貸出や朝の読み語りはもとより、図書館講座の出前、学校図書館事務職員の研修会、児童図書展示会等を行いました。

また、うちどくの拠点に位置づけているコミュニティセンターに対しても、それぞれの特色に応じた読書推進の支援や団体貸出を行い、子どもから高齢者まで、幅広い読書活動が展開されるよう支援を行いました。特に、絵本のセット（「うちどくコンテナ」）を月替わりで各センターに配置し、乳幼児期の読書環境整備と子育て支援の充実を図りました。

なお、前掲の「図書館を使った調べる学習コンクール」に際しては、主体的に考える力を育成するため、児童生徒へのレファレンスサービスや学校図書館との連携による支援を行いました。

さらに、学校・家庭・地域が有機的に連携して、学力向上や不登校の児童生徒の対応を図るとともに、心身の調和のとれた子どもの発達を図ることを目的として、「地域教育研究事業」を実施しました。

3 第三者からのご意見

(1) 生涯学習の推進

- ・学校・家庭・地域が連携した取組やボランティアの皆様による地道な活動が本施策の成果を支えていることに感謝いたします。
- ・地域学校協働活動は、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるために有効な取組だと思えます。さらに内容の充実と広がりを期待します。
- ・地域学校協働活動の推進では、全小学校に地域学校協働活動推進委員を配置された事業を高く評価します。今後ますますそのニーズは高まってくると思われます。
- ・市内全域にわたる図書館サービスのため活動している「ぶっくん」は、伊万里市の宝です。多くの児童生徒、市民が楽しみにしており、生活を豊かにしてくれています。
- ・伊万里市民図書館に関する諸事業は全国にも傑出した取組であり、伊万里市民として大変誇りに思えます。更なる充実した取組をお願いします。
- ・図書館事業においては、レファレンスや予約受付の増加・出前おはなし会・講演会など、利用者のニーズの変化に対応したサービスは評価いたします。今後は担い手となるボランティアの確保・育成など継続的な支援は引き続き必要だと感じています。

(2) 読書などによる家庭教育力の向上

- ・うちどく（家読）の推進については、うちどく広め隊等の充実した活動により意識が高まり、地域ごとのうちどくの取組も広がりを見せ、市民全体の読書活動が充実してきていることを評価します。
- ・学校への支援も団体貸出や朝の読み語り、図書館講座の出前、学校図書館事務職員の研修会、児童図書展示会等、積極的に行われていることを評価します。
- ・コミュニティセンターへ絵本のセット（「うちどくコンテナ」）を月替わりで配置されている取組は子育て支援に大きな役割を果たすものと思えます。

施策3 青少年の健全育成の推進

1 取組方針

学校、家庭、地域が連携して、子どもの生活習慣や自立心を培うほか、生活環境の変化に対応した心豊かでたくましい青少年の育成や地域づくりリーダーの養成を図ります。

また、青少年の健全な育成の環境づくりとして、青少年対策関係機関等と連携して、青少年の非行防止啓発活動を実施するほか、子どもや若者、保護者等からの悩みに対応する青少年相談室の充実を図ります。

2 主な取組実績

(1) 青少年育成団体の活性化や新たな指導者の育成

①放課後子ども教室開催事業

地域住民等の協力・参画を得ながら、文化・芸術の分野ではミニ門松づくりやボードゲームのほか茶道教室など、スポーツの分野では陸上教室やバスケットボール教室など、様々な学習や体験、交流の機会を提供する「放課後子ども教室」を開催しました。

子どもたちの社会性、自主性、創造性を育むとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、子どもたちが安心して過ごせる環境（居場所）づくりを推進することができました。

○実施教室数等（参加者は延べ人数）

伊万里地区 参加者 88人	・お菓子作り ・ミニ門松作り ・親子料理教室
牧島地区 参加者 275人	・陸上教室 ・ミニ門松作り
大坪地区 参加者 241人	・親子で手づくり教室 ・ボードゲーム ・留守家庭児童クラブ交流会 ・親子料理教室
立花地区 参加者 315人	・リズムダンス ・茶道教室 ・鬼火たき ・節分行事
大川内町 参加者 52人	・茶道教室
黒川町 参加者 164人	・休日図書館
東山代町 参加者 31人	しめ縄作り

山代町 参加者 251人	・バスケットボール教室 ・料理教室 ・体験教室
-----------------	-------------------------------



②伊万里市青少年育成市民会議事業

「伊万里サマーキャンプ」は事前研修、直前研修、沖縄で本研修を実施し、各町青少年育成町民会議や関係団体の取り組みに対する支援を行い、地域の青少年育成活動を促進することができました。

また、非行防止活動については、全国強調月間にあわせ、広報紙や市ホームページに掲載し啓発するとともに、定期巡回パトロールや地域環境点検等を実施し、青少年の健全育成に努めました。

伊万里市青少年団体連絡協議会では、「チャレンジ『Day』キャンプ」、「スタミナ焼肉オリエンテーリング」の2事業を実施しました。

(2) 青少年の非行防止や啓発活動への取組

① 非行防止啓発活動

全国強調月間にあわせ、広報誌や市ホームページに掲載し啓発するとともに、定期巡回パトロールや地域環境点検等を実施し、青少年の健全育成に努めました。

② 青少年相談事業

青少年相談室を設置し、青少年や保護者等からの悩み事の相談に対応しました。相談者が気軽に来所または電話により相談できる体制・環境を整え、青少年センターの相談機能を充実させることができました。

○相談業務委託先：青少年なやみ相談つくしの会（教職経験者等7人）

○開設日時：月曜日から金曜日の9:00～17:00

（土・日・祝日、年末年始休日を除く）

○青少年相談室案内カードの配付

小学1年生から高校3年生までの全児童、生徒

過去5年の相談件数

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
件 数	153	111	157	157	134

なや でん わ
一人で悩まず電話してみよう
(0955) **22-7867**
せいしやうねんそつだんしつ
青少年相談室
朝9:00～夕方5:00(月～金)
なやむな

- ◆ 名前は言わなくてもいいよ。
- ◆ ひみつを守るよ。
- ◆ いやなこと・くやしいこと・こまったことがあったら電話してね。
- ◆ 友だちや家ぞくのこと、学校のことなど、なんでも話していいよ。

学校や家庭の中でのいろいろな悩みや不安をかかえている子どもたちや保護者の相談に応じます。

〒848-0045
伊万里市松島町73-1 生涯学習センター内
伊万里市青少年センター

青少年相談室
TEL 0955-22-7867

電話相談・面接相談どちらでもいいです。
受付 午前9時～午後5時(月～金曜日)

(3) インターネットによるトラブルから青少年を守る取組

SNSに起因する誹謗中傷やいじめ、犯罪などから青少年を守るため、PTA・育友会等と連携を図り、人権・同和問題研修の機会を活用して、青少年を取り巻く学校、家庭、地域におけるインターネットリテラシーの向上に努めました。

3 第三者からのご意見

(1) 青少年育成団体の活性化や新たな指導者の育成

- ・地域住民等の協力・参画を得ながら、様々な学習や体験、交流の場を提供する「放課後子ども教室」は、地域に密着した大切な行事だと思います。さらに充実していくことを期待します。
- ・「伊万里サマーキャンプ」、「チャレンジ『Day』キャンプ」、「スタミナ焼肉オリエンテーリング」、定期巡回パトロールなど、青少年の健全育成をめざし様々な取組をされていることに敬意を表します。大人のそういう姿に触れ、子ども達は多くのことを学び、成長するものと思います。
- ・各地区での地域住民等の協力を得ながら実施している「放課後子ども教室」については子どもの居場所づくりとして一定の成果をあげているものだと思います。
- ・学校・家庭・地域が連携した取組が継続的に実施されており、地域全体で青少年を育てる体制が定着しているものと評価いたします。

(2) 青少年の非行防止や啓発活動への取組

- ・青少年相談室での「青少年なやみ相談つくしの会」の活動に心より感謝します。複雑化する社会にあって、様々な悩みに気軽に耳を傾けてくれる相談室の存在はとても大切です。継続・充実を期待します。
- ・インターネットによるトラブルから青少年を守る取組は今後さらに重要性を増します。インターネットリテラシーの向上への取組を評価します。
- ・青少年の健全育成について様々な観点から市を挙げて取組がなされ、伊万里市の青少年が安心して健やかに逞しく成長していることを実感します。継続的な取組に感謝します。
- ・今後の喫緊の課題としてインターネットによる SNS 上でのトラブルから青少年をいかにして守るか、その対応策の作成が急務かと思われます。家庭や市連 P、市子連との協働した取組をお願いします。
- ・青少年相談事業では一定数の相談件数が継続していることから、この事業が地域に浸透し、支援の受け皿として機能しているものだと感じております。
- ・インターネットトラブル防止に向け、トラブルの低年齢化に対応するために発達段階に応じたインターネットリテラシー教育の更なる充実と学校・家庭の連携による問題の早期発見・早期対応につなげてほしいです。

施策 4 子育て支援の充実

1 取組方針

留守家庭児童クラブでは、就労等により保護者が昼間家庭にいない児童に生活の場や適切な遊びを提供し、児童の健全育成に取り組むとともに、保護者の子育てと仕事の両立を支援しています。また、利用希望児童の増加に対応するため施設を拡充し、定員や配置する支援員を増員するなど受け入れ体制の充実に努めています。

2 主な取組実績

(1) 留守家庭児童クラブの充実

①留守家庭児童クラブ管理運営事業

市内 13 小学校区 24 施設の児童クラブを年間 291 日開設し、1,213 人の児童を受け入れました。さらに、うち 473 人については時間を延長して受け入れを行うことにより、子育て支援に貢献することができました。

- ・開所時間 小学校の授業がある日：授業終了後から午後 7 時まで
土曜日、長期休業日：午前 8 時から午後 7 時まで
※午後 6 時から延長利用、1 日 100 円
- ・休所日 日曜日、祝日、8 月 13 日～8 月 15 日、12 月 29 日～1 月 3 日
- ・利用料 月額 3,500 円（8 月のみ 5,000 円）
長期休業期間のみ利用の場合、日額 300 円
※2 人目以降、半額 非課税世帯、半額

【留守家庭児童クラブ利用者数】 ※利用児童は、1 回でも登録があった児童をカウントしています。

児童クラブ名	利用児童	延長利用者	定員	児童クラブ名	利用児童	延長利用者	定員
伊万里第 1	98	40	70	大川内	48	20	45
伊万里第 2	54	17	50	黒川	45	14	50
伊万里第 3	57	33	50	波多津	57	18	80
牧 島	36	9	35	南波多	54	13	45
大坪第 1	56	31	55	松 浦	46	13	50
大坪第 2	39	11	40	二 里	107	52	85
大坪第 3	29	9	31	東山代第 1	109	43	100
大坪第 4	42	15	40	東山代第 2	34	7	34
立花第 1	84	34	70	若楠第 1	29	7	35
立花第 2	40	21	40	若楠第 2	19	8	34
立花第 3	37	14	35	山代西	15	8	25
立花第 4	41	23	40	合 計	1,213	473	1,179
立花第 5	37	13	40				

②東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業

令和5年度に引き続き、東山代小学校、東山代コミュニティセンター及び東山代児童クラブの複合施設の建設工事を実施し、令和7年4月から供用を開始しました。

◆東山代児童クラブ概要

- ・支援単位数 4 部屋
- ・定員 160 名 (40 名×4 部屋)

③東陵学園等整備事業

東陵中学校、大川小学校、松浦小学校を統合することとなり、東陵中学校の改修にあわせ、東陵学園前期課程の児童が利用するための新たな児童クラブを東陵中学校内にある部室棟を改修し、東陵第1クラブ及び東陵第2クラブの2クラブを整備し、令和7年4月から供用を開始しました。

◆東陵児童クラブ概要

- ・支援単位数 2 部屋
- ・定員 80 名 (42 名×1 部屋、38 名×1 部屋)

3 第三者からのご意見

(1) 留守家庭児童クラブの充実

- ・児童への生活の場や適切な遊びの提供、保護者の子育てと仕事の両立への支援として施設拡充、支援員の増員など「留守家庭児童クラブ」の充実に努力されていることを評価します。
- ・新しい東山代児童クラブ、東陵児童クラブの活動が楽しみです。
- ・留守家庭児童が年々増加し、その対応に配慮した取組を評価します。少子化が進む一方放課後児童クラブの利用者は更に増加の傾向にあり、働く保護者にとって必要不可欠な施策だと思います。安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりにつながることを期待し、更なる充実した取組をお願いします。
- ・東陵学園の設置事業、ありがとうございました。教育効果が発揮されていると思います。
- ・放課後児童クラブの利用者数については、1,390人から1,213人と減少しています。今後の少子化と利用者数は気になるところです。

・土曜日の長期休業期間にも対応した運営により、保護者の子育てと仕事の両立を継続的に支援している点は評価します。今後については、共働き世帯や医療・福祉・サービス業など土日祝勤務が多い家庭への対応として休日対応型の居場所支援が可能になるよう検討されることにも期待したいです。ただ、人材の確保や運営費などが課題と思います。

施策5 文化芸術・スポーツの振興

1 取組方針

市内の文化芸術団体との協働により「伊万里市美術展」や「市民音楽祭」を開催するとともに、市民の文化芸術活動に関する情報や優れた芸術鑑賞の機会を充実することにより、多くの市民の文化芸術活動への参加を促すほか、市内の文化芸術団体の自主活動を支援します。

また、スポーツは心身の健全な発達及び健康や体力の保持増進など、市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠なものとなっています。

このため、佐賀県との連携を図り、「スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり」を目指し、市民だれもが、いつでも、どこでも生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できる環境づくりを推進します。

2 主な取組実績

(1) 市民の主体的な文化活動の促進

①市美術展開催事業

市民や市内クラブに所属している人等から創作意欲に溢れる作品を公募し、絵画、書、写真・工芸の部門別に「伊万里市美術展」を開催しました。

市民の市美術展への関心は広がっており、出品者数・出品点数においては昨年度の数を上回りました。

一般市民へ作品発表の場を提供するとともに、市民に美術鑑賞の機会を提供し、市民参加型の文化芸術の振興を図ることができました。

○主催：市美術展実行委員会

(絵画2人、書4人、写真1人、工芸2人、計9人で組織)

市教育委員会

○会場：市民センター 文化ギャラリー

○部門ごとの開催期日、出品数

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| ・前期 (5/15～5/19)：書 | 出品数 266点
(一般38点、小中学生228点) |
| ・中期 (5/22～5/26)：写真・工芸 | 出品数 写真62点・工芸42点 |
| ・後期 (5/29～6/2)：絵画 | 出品数 70点 |

○出品者数：340人

○入場者数：延べ816人

過去の部門別出品点数

部門	絵画	書 (一般)	書 (学生)	写真	工芸	計	出品者数
R元	47	66	250	70	46	479	379
R3	52	49	196	45	41	383	314
R4	45	31	170	45	42	333	262
R5	56	40	206	63	53	418	308

年度別入場者数

年度	R元	R3	R4	R5
人数	1,481	1,071	952	1,023

※R2年度は中止

②市民音楽祭開催事業

市内を中心に活動する団体が、合唱、吹奏楽やバイオリン、箏、ハーモニカなど多彩な演奏や歌を披露する「市民音楽祭」を開催しました。

地域における芸術文化の継続や活動団体のモチベーションの向上につながりました。

- 開催期日：12月1日（日）
- 出演団体：21団体（器楽・重奏 12団体、歌・合唱 9団体）
- 出演者数：261人
- 参観者数：約215人

過去の出演団体・出演者数

	出演団体	出演者数
R元	23	343
R3	13	154
R4	17	217
R5	20	278



(2) スポーツ活動の促進

①ウオーキング大会開催事業

市民の健康づくりと自然豊かな伊万里を市内外にPRすることを目的に、平成18年度から毎年、伊万里ウオークを開催しています。

令和6年11月23日に「魅力あふれる夢のまち伊万里ウオーク2024」を開催したところ、市内外から853名の参加をいただき、市民が気軽に参加できる健康づくりの場を創出するとともに、市外の方に本市の魅力発信を行うことができました。

【コース別参加者数】

●伊万里湾岸・はちがめコース（約 20km）	160 名
●秘窯の里・鍋島コース（約 12km）	413 名
●古伊万里コース（約 6km）	280 名
	計 853 名

【地域別参加者数】

●佐賀県内	615 名
うち伊万里市内	(482 名)
うち伊万里市外	(133 名)
●福岡県	38 名
●長崎県	195 名
●その他	5 名
	計 853 名

②ハーフマラソン大会開催事業

スポーツの振興に加え、交流人口の拡大や観光情報の発信を目的として、伊万里ハーフマラソン大会を開催しました。

平成 27 年から開催し 11 回目の大会となる 2025 大会は、全国各地から 3,035 人のエントリーがあり、県内外の参加者に対し、伊万里の魅力を発信することができました。

伊万里ハーフマラソン2025(IMARI HALF-MARATHON2025) エントリー集計												
種目別エントリー数 【最終】												
種目 No.	種目・種別		2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016
						オンライン	オンライン					
1	ハーフ	男子 18～39歳	755	697	459	107	219	945	914	849	922	726
2		男子 40～49歳	729	685	490	193	343	850	795	708	734	554
3		男子 50～59歳	696	619	478	186	281	657	623	520	496	395
4		男子 60歳以上	353	361	261	60	106	331	313	276	256	175
5		女子 18～39歳	155	145	111	32	50	274	257	215	250	221
6		女子 40～49歳	143	161	108	65	123	223	214	193	191	154
7		女子 50～59歳	140	167	107	60	90	168	134	112	110	65
8		女子 60歳以上	64	63	43	27	32	57	50	46	29	18
9		セルフ男子18歳以上	-	-	-	307	393	-	-	-	-	-
10		セルフ女子18歳以上	-	-	-	269	323	-	-	-	-	-
	小 計		3,035	2,898	2,057	1,306	1,960	3,505	3,300	2,919	2,988	2,308
	10km	一般男女、高校男子	-	-	-	-	-	-	220	239	234	200
	3km	小中高男女、一般女子、壮年男子、車いす	-	-	-	-	-	332	322	213	224	201
合 計			3,035	2,898	2,057	1,306	1,960	3,837	3,842	3,371	3,446	2,709

③ニュースポーツ大会開催事業

市民が気軽にスポーツを楽しみ、心身の健康を維持する機会を創出するため、ニュースポーツ大会を開催するとともに、スポーツの楽しさに触れる機会を創出するため、年少児から小学生を対象とした伊万里っ子キッズスポーツフェスティバルを開催しました。

また、貸出用備品であるデッキスティックゲームを購入しました。

スポーツの楽しさを味わいながら仲間意識を醸成し健康を維持する生涯スポーツを推進することができました。

大会名	参加チーム数等	参加者数
第 27 回市民グラウンド・ゴルフ大会	63 チーム	368 人
第 18 回市民ソフトバレーボール大会	25 チーム	123 人
第 37 回市長杯争奪市民ゲートボール大会	12 チーム	74 人
伊万里スプリングスポーツデイ (第 1 回市民モルック大会)	10 チーム	45 人
(第 13 回市民ペタンク大会)	11 チーム	37 人
(第 32 回伊万里っ子・キッズスポーツフェスティバル)	陸上・ ホッケー・ ラグビー	45 人



④国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会推進事業

令和 6 年度に佐賀県で開催された第 78 回国民スポーツ大会・第 23 回全国障害者スポーツ大会伊万里市開催競技の運営等を行った SAGA2024 伊万里市実行委員会に対し負担金等を支出しました。

SAGA2024 伊万里市実行委員会では、伊万里市開催競技として国スポ 4 競技、全障スポ 1 競技の大会運営等を行い、大会期間中延べ約 23 千人の方が来場されました。

佐賀県チームは、男女総合成績で第2位、女子総合成績でも第2位という輝かしい成績を納められ、更に、ホッケー競技では成年女子が若楠国体以来となる48年ぶりのメダル（銅）を獲得されました。

SAGA 2024 国スポ 全障スポ 新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

⑤スポーツ施設の整備充実及び環境づくり

スポーツの振興を図るうえで、その基盤となるスポーツ施設の充実は必要不可欠であることから、既存施設の適正な維持管理に努めるとともに、地域運動広場の整備を支援するなど、安全かつ快適にスポーツに親しめる環境づくりに取り組みました。

令和6年度は、老朽化した国見台陸上競技場の擁壁について、安全性の確保に必要な改修工事を行うための実施設計を行い、次年度の改修工事に向けた準備を整えることができました。

さらに、長年の課題であった市散弾銃射撃場については、伊万里市散弾銃射撃場環境対策検討委員会で策定されたアクションプランに基づき、散弾銃射撃場内および場外の水質（表流水・地下水）調査を行いました。

令和7年3月26日に開催した検討委員会において、対策工事及び水質調査結果を報告するとともに、今後の方針について協議を行いました。

なお、水質調査については、対策工事後の経過観察のため、これまでの年2回から3回に調査回数を変更し実施するとともに、検討委員会において、対策工事及び水質調査結果について報告し、今後3年間は水質調査を継続して経過観察を行うことを確認しました。



▲散弾銃射撃場

3 第三者からのご意見

(1) 市民の主体的な文化活動の促進

- ・市美術展は、出品者数、出品点数は増加していますが、入場者数の減少が気になります。また、市民音楽祭も参観者がもっと市内に広がってもよいと思います。市民への発表の場の提供、モチベーションの向上に寄与するとともに、市民の文化芸術活動への関心を高める貴重な事業です。さらなる発展を期待します。
- ・文化芸術活動として市美術展や市民音楽祭が継続的に開催されていることに敬意を表します。
- ・市美術展や市民音楽祭の開催により、幅広い世代が文化芸術活動に参加・鑑賞できる機会が継続的に確保されていることは素晴らしいものだと思っております。

(2) スポーツ活動の促進

- ・ウォーキング大会は気軽に参加できる健康づくりの場の創出に大きな役割を果たすとともに、本市の魅力発信に貢献しています。秘窯の里・鍋島コースの参加者がいつも多いのですが、これも秘窯の里・鍋島の魅力でしょうか。大切にしたいものです。
- ・ハーフマラソン大会は長年の努力により全国に広がり、スポーツの振興、交流人口の拡大、観光情報の発信などに大きく貢献しています。開催にあたりご尽力いただく関係者の皆様に心から敬意を表します。
- ・ニュースポーツ大会は、スポーツを楽しみ、心身の健康を維持する機会として大変有効です。特に伊万里っ子キッズスポーツフェスティバルは子ども達にスポーツの楽しさを味わわせる貴重な事業だと思います。
- ・国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会は伊万里市実行委員会を中心に、全市民が「する、見る、支える」それぞれの立場で協力・支援・応援し、感動的な大会でした。
- ・長年の課題であった市散弾銃射撃場について、アクションプランに基づき、着実に対策工事及び水質検査が実施され、課題解決へ前進していることに感謝します。
- ・スポーツ活動では伊万里ウォーキング大会や伊万里ハーフマラソン大会に全国や市内外から多数の参加があり、伊万里市のPRと市挙げての協力体制づくりに大いに貢献し、伊万里市の活性化につながっています。関係の皆様へ感謝申し上げ、スポーツを中心に据えた新しい伊万里市の未来を目指した取組にしてほしいと思います。

- ニュースポーツ事業の開催によりニュースポーツが市民に浸透してきたと実感します。更なる取組を期待します。さらにパラスポーツの普及・振興も施策にあげ、取り組んでいただけたらと思います。
- 国見台の陸上競技場改修事業に着手していただき感謝申し上げます。また大川内山の市散弾銃射撃場の課題については引き続きの取組をお願いします。
- 伊万里ウオークやハーフマラソンは市外からの参加もあり、改めて伊万里の観光につながればありがたいです。大きなイベントであるため、準備される皆様には感謝いたします。

施策6 人権教育と啓発の推進

1 取組方針

すべての人の人権が尊重される「人権のまち伊万里」の実現をめざして、同和問題をはじめとする様々な人権問題の早期解決を図るため、「伊万里市部落差別解消の推進及び人権擁護に関する条例」及び「伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針」に基づき、関係機関等との協働で地域に密着した研修講座を開催するなど、学習の場づくりと市民意識の高揚に努めるとともに、地域における指導者の育成を図ります。

また、コロナ禍において構築した、市民の生活様式に即した新たな手法の住民啓発の展開に努めます。

併せて、インターネットを悪用した人権侵害行為から市民を守るため、インターネットモニタリングに取り組みます。

2 主な取組実績

(1) 市民の人権意識の高揚に向けた取組

① 社会人権・同和教育団体支援事業

同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の早期解決を図るため、「市人権・同和教育推進協議会」と協働し、地域に密着した教育・啓発を実施しました。各種研修講座を開催し、市民の人権意識の向上に努めることができました。

事業名	実施回数	参加者数
指導者育成講座	7	240
地区巡回講座	44	856
PTA等研修講座	22	2,157
企業・事業所研修講座	15	1,049
住民啓発事業	88	6,381
計	176	10,683



▲地区巡回講座

(2) 同和問題の早期解決に向けた啓発活動の推進

①同和教育集会所管理運営事業

同和問題解決の拠点施設である同和教育集会所の管理運営を行いました。
人権啓発交流事業「粘土教室」「料理教室」を実施するなど、市民への同和
教育の推進・向上に努めることができました。

	施設利用者数 (人)
令和2年度	636
令和3年度	635
令和4年度	647
令和5年度	710
令和6年度	641



▲粘土教室 (作品)



▲同和問題研修



▲料理教室

(3) インターネットモニタリングの推進

差別的な書き込みが懸念される掲示板サイト等のモニタリングは人権・同和
対策課が行っていることから、部落差別を扇動するグループが運営するサイト
や、個人情報に記載された古文書の出品が散見されるオークションサイトを中
心に監視を行いました。

また、この取組を広報誌や研修講座等において広く周知することで、新たな人
権侵害情報の掲載抑止に努めました。

3 第三者からのご意見

(1) 市民の人権意識の高揚に向けた取組

- すべての人の人権が尊重される「人権のまち伊万里」の実現をめざし、同和問題をはじめとする様々人権問題の早期解決を図るため関係機関等との協働で、地域に密着した研修講座の開催に努力されていることに感謝します。今後とも継続・深化を期待します。
- 人権教育推進には、まず、行政職員が意識・認識を高め感性を磨き、率先して模範を示すことが大切です。日常の姿勢で市民をリードし、「人権のまち伊万里」を創造してください。

(2) 同和問題の早期解決に向けた啓発活動の推進

- 同和問題の早期発見に向け、粘土教室や料理教室などは年齢・立場を問わず参加しやすく「違いではなく」「同じ市民」であることを実感しやすいように思います。

(3) インターネットモニタリングの推進

- インターネットを悪用した人権侵害行為の増加が心配されます。インターネットモニタリングのさらなる推進をお願いします。
- 市の条例や基本方針に則り、着実に取り組まれていることに敬意を表します。一日も早く部落差別問題が解消され、またインターネットモニタリングの活用などを通して伊万里市民が人としての尊厳が大事にされた、差別のない安心して自由で平等な社会が実現されますことを祈念します。
- インターネット上の差別は巧妙化しており、継続的な体制強化が求められものだと思います。対応策も変化していくものだと思いますが、関係機関（法務局・警察・サイト運営者等）との連携をさらに強化していただきたい。

施策 7 文化財の保護

1 取組方針

国指定史跡大川内鍋島窯跡など本市が誇る焼き物に関する貴重な遺跡をはじめ、国内有数の黒曜石原産地である腰岳遺跡群や市内に所在する文化遺産の保護顕彰を図るとともに、国指定天然記念物であるカブトガニ繁殖地などの地域固有の動植物や、県指定重要無形民俗文化財の府招浮立などの伝統芸能を継承する活動を支援し、これら文化財の保存と活用に努めます。

また、伊万里市歴史民俗資料館、伊万里市陶器商家資料館、伊万里・鍋島ギャラリーを郷土の歴史や伝統文化、自然などの情報発信拠点として充実を図ります。

2 主な取組実績

(1) 文化財の保存と保存活動団体への支援

① 史跡大川内鍋島窯跡学術調査事業

史跡大川内鍋島窯跡の将来的な保存・整備・活用を図り、地域活性化に資するため、平成 26 年度から国県の補助金を活用し遺構の範囲や性格、歴史の変遷を確認する発掘調査を実施しています。

令和 6 年度は、日峯社下窯跡の発掘調査を行い、令和 7 年 3 月 26 日に調査指導会議を開催しました。

日峯社下窯跡の第 7 室の空間地と作業通路及び物原の位置関係を確認することを目的として 2 か所トレンチを設定し、発掘調査を行いました。調査の結果、第 7 室西側の作業通路とマウンド状物原の東端部分を確認しました。これらの成果は今後の史跡整備の基礎資料として活用します。

調査指導会議では今回の調査結果をふまえ、出土陶片と同じ伝世品を詳細に比較検討し、製作方法の差異を確認すること、窯体の西側にある空間地について、面的な発掘調査を検討すること、さらに窯体の造成方法を確認するための調査方法について指導を受けました。また、発掘調査の現地を視察し、無遺物層について窯室の床面材の可能性を指摘されました。



▲調査指導会議の様子

②腰岳遺跡群学術調査事業

日本有数の黒曜石原産地である腰岳の文化的な保護を目的とした事業です。令和6年度は令和5年度に引き続き、過去に実施した調査の出土遺物の再整理作業と、腰岳で採取した黒曜石の化学分析を行いました。これらの成果報告と指導助言を受けるため、第3回の有識者らによる調査指導会議を開催しました。

再整理作業では、昭和59・60年に実施した鈴桶遺跡の発掘調査のうち、調査区I区で出土した遺物のカウント作業を行いました。この作業によって、I区の各グリッドでの遺物の数を確認し、調査区内における出土遺物の分布状況を把握しました。

黒曜石の化学分析については、標高300～170mで採取した29点を試料とし、長崎大学へ分析を依頼しました。

令和7年3月6日に調査指導会議を開催し、事業内容の報告を行いました。再整理作業については、今回データ上で把握した分布状況を、当時のドット図と照らし合わせる作業を行うよう指導を受けました。また、残りのⅡ・Ⅲ区も同様にカウント作業と図面との照合を行い、悉皆的な分類作業を行う箇所（グリッド）を決定していくこととしました。

化学分析については、昨年度の委員会でも意見があった腰岳産黒曜石の原石サンプルについて大学側と連携して進めていくこととなり、今後、露頭箇所の現地踏査等を実施します。



鈴桶遺跡出土遺物 再整理作業



黒曜石水洗作業

第3回調査指導会議

③カブトガニ保護促進事業

間近でカブトガニの生態を観察し保存活動への理解を深めるため、また、地域のまちづくり活動の拠点とするため、地元保護団体である『牧島のカブトガニとホタルを育てる会』が運営している「伊万里湾カブトガニの館」の運営に対して支援を行いました。

そのほかに、『佐賀県立伊万里高等学校理化・生物部』へのカブトガニ研究調査業務委託や『伊万里市カブトガニを守る会』に対し支援を行いました。



◀伊万里湾カブトガニの館

令和6年度の伊万里湾カブトガニの館の入館者数は4,286名でした。(令和3年度から令和5年度(3年間)までの平均入館者数4,051名)

伊万里市カブトガニを守る会を中心に、カブトガニの産卵地清掃を行いました。ボランティアの参加を含め、延べ約60名の参加がありました。今回の清掃では、2トントラック2台分のゴミを回収することができました。

「カブトガニの産卵を観る会」を開催し、約80名の参加がありました。当日は、伊万里高校理化・生物部によるカブトガニの解説が行われ、参加者の方々は興味深げに耳を傾けていました。また、観る会と同日に、カブトガニ増殖のためにカブトガニの館や伊万里高校、青嶺中学校、牧島小学校、山代東小学校で約1年間飼育した幼生約1,850匹を放流しました。幼生の飼育については、令和6年12月に牧島小学校へ幼生の引き渡しを行い、飼育しています。

カブトガニの産卵つがい数について、令和3年と令和4年は、平成28年～令和2年(5年間)の平均である522つがいの3倍近くの約1,500つがいを記録していましたが、令和6年は、258つがいを記録し、平均以下のつがい数となりました。この減少の実態を確認するため、令和7年度に産卵地一斉調査を行います。



▲伊万里高校理化・生物部による解説の様子



▲産卵観察の様子

(2) 文化財の活用と展示・公開・啓発活動

①歴史民俗資料館管理運営事業

歴史民俗資料館では、伊万里市の歴史や文化、自然を紹介する常設展に加え、企画展「洞窟と考古学者」を実施しました。

「洞窟と考古学者」は、佐世保市教育委員会と岡山理科大学の共同主催によるもので、伊万里市は8か所の開催館のうちの1つとして、令和6年4月27日（土）から6月23日（日）まで巡回展を行いました。展示テーマは、昭和30年代に西北九州を舞台に行われた旧石器時代の遺跡や洞窟遺跡の発掘調査と、それに携わった考古学者について、伊万里市では鈴桶遺跡（二里町）の出土遺物のほか、白蛇山岩陰遺跡（東山代町）や近隣市町である有田町の中尾岳（盗人岩）洞穴遺跡の資料を展示しました。

また、小、中、高校生に伊万里の良さを知ってもらい、伊万里に住んでいることに誇りを持ってもらうよう、出前講座や見学講座に積極的に取り組みました。

令和6年度の入館者数は1,447人を数え、伊万里市民を中心に郷土に対する理解を深めることができました。

また、出前講座、見学講座も年間11回実施し、小学生を中心に伊万里のすばらしさを伝えることができました。



▲常設展 古代コーナー



▲見学講座の様子

②陶器商家資料館管理運営事業

陶器商家資料館では、市重要文化財の旧犬塚家住宅である建物の公開と併せて「古伊万里」などの古陶磁器や商家に関する文書や調度品などの展示を行いました。

館内に設置している6枚の説明パネルについては、来館者にとってより分かりやすいものになるよう、内容を更新し、新しく作り直しました。

また、玄関上部に設置している「丸駒」の看板や2階の窓の木製建具等の

修繕を行い、当時の造りをそのまま残しながら、より良い環境の整備に努めました。

令和6年度の入館者数は2,910人を数え、市内外からの来訪者へ、本市のやきもの文化や商人文化に関する理解を深めるとともに、市街地観光に貢献しました。



▲外観と丸駒の看板

③鍋島ギャラリー管理運営事業

伊万里・鍋島ギャラリーでは、市内外からの来館者へ、鍋島焼や古伊万里の歴史、伝統文化に対する理解を深めてもらうために、所蔵する優品の常設企画展を開催しました。来館者の皆様が、古伊万里や鍋島焼についてこれまで以上に興味を持ち、理解を深めてもらうために、説明動画を作成し展示室内に設置しました。

また、「伊万里・鍋島ギャラリー所蔵品図録」について、旧図録作成以降に伊万里市の所蔵になったやきものを加え、新しく分かったことを付加・修正した改訂版を作成しました。

「鍋島・古伊万里展 青磁・染付・色絵の世界」

10月7日～4月14日

「鍋島・古伊万里展 清涼なうつわたち」

4月23日～11月4日

「鍋島・古伊万里展 美しいうつわたち」

11月12日～4月13日



▲伊万里・鍋島ギャラリー

このほかに、大川内山の秋の窯元市に協賛して、伊万里・有田焼伝統産業会館においても本市が所蔵する古陶磁器を広く一般に展示公開しました。

令和6年度の来館者数は5,976人を数え、市内外からの来館者へ鍋島焼や古伊万里の歴史、伝統文化に対する理解を深めてもらうとともに、市街地観光に貢献しました。また、市内の小学校を中心に団体で訪れる学校や施設が増え、実際のやきものの見学や説明を通して伊万里のすばらしさを伝えることができました。



▲説明動画



▲改訂版 所蔵品図録

3 第三者からのご意見

(1) 文化財の保存と保存活動団体への支援

・史跡大川内鍋島窯跡、腰岳遺跡群などの文化遺産の保護顕彰を図るとともに、カブトガニ繁殖地などの地域固有の動植物や府招浮立などの伝統芸能を継承する活動支援など、文化財の保存と活用に努力されていることに敬意を表します。

・カブトガニ保護促進事業が行政、地域、学校、関係団体の協力のもとに大切に継続されていることに敬意を表します。

・「カブトガニの産卵を観る会」で伊万里高校理化・生物部が解説している姿、小・中学生が飼育した幼生を放流している様子、伊万里市カブトガニを守る会を中心にボランティアの人々が産卵地清掃に取り組んでいる様子は伊万里市の誇りです。

・文化財の保護に関して様々な活動を知り、その取組に対して評価します。

・カブトガニ保護促進事業では、その活動は全国に誇れる取組だと思います。ふるさと伊万里を思う気持ちの醸成や市民の連帯感の育成などに繋がる素晴らしい取組だと思います。未来永劫引き継がれる事業の積極的支援をお願いします。

・カブトガニの保護を目的に、調査・保全・啓発活動を継続的に実施している点は評価いたします。特に幼生の飼育は児童生徒により育て放流することで親しみ・興味を育んでくれるものだと思います。

・大川内鍋島窯跡について、発掘調査や学術的検証を継続的に実施しており、保存に向けた取組は評価しています。今後は史跡としての価値を明確に示し観光・教育と連携した活用を進めていけたらと願います。

(2) 文化財の活用と展示・公開・啓発活動

・歴史民俗資料館で小・中・高校生に伊万里の良さを知ってもらうため出前講座や見学講座に積極的に取り組まれていることを評価します。

・伊万里・鍋島ギャラリーで説明動画の作成や「伊万里・鍋島ギャラリー所蔵品図録」の改訂版の作成など、古伊万里や鍋島焼について興味を持ち、理解を深めてもらうための努力に感謝します。また、小学校を中心に団体で訪れる学校や施設が増えたことを評価します。

・文化財の展示として是非独立した文化・歴史資料館の建設に着手していただきたいと思います。また地域の文化財保護活動施設や各団体との連携を図り、広く市内外にPRをして地域の活性化がなされればと思います。



iMAR!